

令和6年5月10日

記録：関根 浩

令和6年度 第1回 学校関係者評価委員会 議事録

1. 日時 令和6年5月9日(木) 13時30分
2. 場所 大川学園医療福祉専門学校 2階会議室
3. 出席者 秋元靖司（下加治自治会会長）
和田佐和子（芳友会会長（同窓会））
小林健一（つつじの園施設長）
高橋誠一（彩の森接骨院院長）
岡部一宏（大川学園高等学校校長）
平澤淳校長 霞孝行柔道整復学科長 星野成美介護福祉学科長
岡村忠彦教務部長 福島有美事務室長 関根浩介護福祉学科教務補佐

4. 議題

- ①校長挨拶
- ②自己紹介
- ③令和5年度「自己評価報告書」の報告・意見・助言
- ④令和6年度事業計画等について
- ⑤年間行事予定について
- ⑥意見・助言等
- ⑦事務連絡

5. 校長挨拶

お忙しい中、お時間を割いていただき、ご出席いただき誠にありがとうございます。GWも終わり、本格的な学校生活が始まりました。昨年度は、志途中で進路変更をする学生が多くみられましたが、今年度は、途中で去っていかないよう今以上に一人ひとりの目を向けた指導をしていきたいと考えています。本日は色々なご意見等をいただきたいと思います。よろしくお願い致します。

6. 自己紹介

各委員から自己紹介が行われました。

7. 令和6年度事業計画について

- ・校訓・教育理念・教育目標・三ポリシーは昨年同様である。しっかりと個々が理解できるようになることが大切となります。
- ・内部管理体制を強化し、コンプライアンスの徹底を図ります。
- ・学生あつての学校である為、入学生の確保が重要です。今後もSNS等の情報発信を更新していき、定員70名をうめていきます
- ・学生指導については、中途退学者等の進路変更がないよう今以上に一人ひとりに

目を向けて指導をしていきます。

- 昨年度の国家試験の結果について、柔道整復学科は、8名受験し全員合格、既卒生も2名受験し2名とも合格しました、介護福祉学科は、日本人については1名のみ不合格、今年度は、合格率100%を目指し指導を行っています。
- 両学科共に4月から職業実践専門課程としてスタート致しました。職業実践専門課程は、認定されている専門学校の学科として50%もっていない中ともあり、入学を希望する方々に対しては、当校の売りとなり、今後、影響するものと考え、適正な学校運営をしていきます。
- 地域貢献では、地元を大事にし、「飯能新緑ツデーマーチ」や「奥武蔵中学校駅伝大会」等のボランティア・救護活動等を今後も積極的に参加します。

8. 年間行事予定について

昨年4年ぶりに「学園祭」を実施しました。今年度も10月20日(日)に、地域の方々を含めた高等学校との合同学園祭を今年度も予定しています。

9. 各学科より

<柔道整復学科>

- 1年生19名、2年生24名、3年生22名の在学者数です。
- 昨年度は、退学者増となってしまったが、近年、留年する学生が進級時に退学ではなく残る傾向となってきています。
- 心理学の教員から今年度の1年生は、何らかのメンタル的なケアが必要な学生が多く、本人達の希望があればカウンセリングを行う予定です。
- 外部実習先として、亜細亜大学サッカー部での実習を行うことが可能となりました。
- 色々と学生に対する受け入れ態勢が整いました。

<介護福祉学科>

- 1年生34名(うち留学生19名)、2年生26名(うち留学生10名)の在籍者数です。
- 新1年生は、幼稚な部分が見受けられます。留学生は、日本語能力が厳しい。N2を取得している留学生も数名いるが、今までで一番レベルが低いと思われます。2年生で3名がN2を取得していない留学生もいるので、1年生の内に取得しましょうと指導しています。
- 留学生に対しては、介護施設とのマッチング会を開催し、修学資金を借りる為の保証人探しを独自に行ったことにより、学校生活は勿論のこと、介護施設でのアルバイトにも注意を向ける必要があります。また、ビザの更新も学科内で行っている為、責任を感じています。
- 外部の施設実習については、施設からのクレームが入るのは、日本人(特に新卒)…、留学生は意外と問題ありません。

10. 令和5年度「自己評価報告書」の報告・意見・助言

- メンタルケアが必要である。中学・高校とコロナ禍で育ち貧弱化となっている若者

が多い。学校でも気に掛けていかなければならないと思われる。

- 進学を希望しても学力的にダメな生徒もいる。早めに声を掛けることが必要だと思われる。
- 若い学生は、勉強の仕方がわからないようである。
- 学校訪問はしているのか？
 - 最近、学生の母校である高校へ卒業式・入学式・実習写真等を持参し挨拶に回っている。また、ターゲットを絞り高校ガイダンスに参加している。
- 今の高校生は、医者と看護師は知っているが、柔道整復師や介護福祉士というお仕事は知らないようである。なぜなら「先生の資格は？」と年に5・6回質問される。こんな感じなので、学校訪問は必要であると思われます。
- 週1回、大学で授業を行っているが、今年はちょっと違うな…とコロナ禍で育った特性なのか、やっぱりメンタルケア必要ではないかというところに共感を受けた。
- 「勉強の仕方を教えて欲しい」とよく質問される。指導の仕方を考えないと…この問題は自分事として考えている。
- 入学生を確保するためには、外へのPR、内への充実が必要である。
- 入学生を確保するための1つの方法として高等課程では、「武蔵野調理師専門学校」のフランス料理の先生をお呼びしての授業を行っている。
- 近々、所沢市内の中学校のPTA役員の方々が40名来校し、高等課程の授業を見学する予定である。
 - 授業を見てもらえるような中身にしないと…。
- 入学確保は、アイデア勝負である。
- 募集に関して専門学校と高等学校との合同学園祭は大切である。

11. 事務連絡

次回開催予定 令和7年3月14日(金) 13時30分 2階会議室

令和7年3月14日

記録：岡村 忠彦

令和6年度 第2回 学校関係者評価委員会 議事録

1. 日時 令和7年3月14日(金) 13時30分
2. 場所 大川学園医療福祉専門学校 2階会議室
3. 出席者 秋元 靖司(下加治自治会会長)…欠席
和田 佐和子(芳友会会長(同窓会))…欠席
小林健一(つつじの園施設長)
高橋誠一(彩の森接骨院院長)
岡部一宏(大川学園高等学校校長)
平澤淳校長 霞孝行柔道整復学科長 星野成美介護福祉学科長
岡村忠彦教務部長 福島有美事務室長 関根浩学務部長(欠席)

4. 議題

- ①校長挨拶
- ②令和5年度学生の状況・学生募集振り返り等
- ③年間行事予定について
- ④意見・助言等
- ⑤事務連絡

5. 校長挨拶

今年度の卒業生が38名(柔整科13名、介護科25名)、
次年度の入学予定者が柔整科10名、介護科29名、合計39名でほぼ確定いたしました。募集定員が70名(柔整科30名、介護科40名)であることを考えると大きく未達であり、募集に関しては反省点の多い1年でした。

3月末に介護科、柔整科の国家試験合格発表があります。全員の合格を祈っているところであります。

今年度から柔整科も職業実践専門課程の認可を受け、柔整科、介護科両学科ともに職業実践専門課程としてスタートすることができました。

また今後第三者評価の義務化の流れの中、情勢を見ながら今後の学校関係者評価の在り方を判断していきたいと思っております。

令和7年度につきましては、今年度の反省をふまえ、スタートしていきたいと思っております。本日はそのためのご助言・ご指導を賜ればと思っております。

なお自己評価報告書については、次回5月に開催する「学校関係者評価委員会」にて振り返りをさせていただきます。

6. 令和5年度学生状況・学生募集振り返り等
〈柔道整復学科 霞学科長〉

- ・令和6年度卒業生は13名、うち国家試験合格者11名の予定です。
- ・2年生は17名、1年生は17名進級予定です。
- ・1、2年生で合計7名の退学者が出てしまいましたが、理由といたしましては、学力、家庭問題、精神的問題となっております。
- ・令和6年度より職業実践専門課程に認可されました。
- ・次年度入学者は10名と募集に関しては大変苦戦いたしました。HPの刷新、インスタの活用、企業連携などを実施し、入学者確保に取り組んでいきます。
- ・学生のモチベーション維持・向上のため、キャリアサポート授業を次年度から導入していきます。
- ・2年時において、外部の接骨院、医療機関等での外部実習を実施している。
- ・次年度への留年者は2名（現3年生）のみとなっている。
- ・退学者対策として、基礎学力の向上（文章読解力、授業の聞き方）とモチベーション維持（企業参画授業の導入）を図っていきたい。

<介護福祉学科 星野学科長>

- ・今年度、2年生は26名（うち留学生10名）でスタートし、25名が卒業、1名が退学となった。就職率は100%、国家試験結果予想は4名が不合格の見通しです（変動の可能性あり）。
- ・1年生については、34名（うち留学生19名）でスタートし、4名（留学生1名含む）が退学予定です。
- ・今年度は国家試験対策を強化し、2年生に授業を実施しました。国家試験に合格できなかった卒業生に対しても講座を開放しましたが、最終的には来なくなりました。
- ・近年の学生は、学力、読解力、コミュニケーション能力の低下が目につきます。また障害をかかえている学生もおり、これらの問題を抱えている学生への指導方法を検討する必要性を感じています。
- ・次年度で経過措置が終わる予定となっています。その先については流動的なので、今後の情勢を見極めていきます。
- ・留学生については、日本語検定3級を持っている学生を取る予定であったが、その基準ではハードルが高く、なかなか上手くいかなかったのが実情でした。

7. 年間行事予定振り返り

- ・コロナ禍も一段落したことで、年間予定もほぼコロナ前と同じ形で推移することができました。学園祭も高専合同で実施することができ、来場者は約450人に上り、盛況に終えることができました。
- ・昨年12月から1月にかけて学生アンケートを実施いたしました。概ね好意的な内容の回答が多かったと思いますが、今回出てきた不満点等、今後の学校・学科運営に反映させていきたいと思っております。

8. 意見・助言等

- ・ 専門学校にもかかわらず、「基礎学力」不足という問題を抱えており、その辺の初歩的な指導から始めなければならないご苦労をお察しいたします。
- ・ 介護福祉学科においては、留学生の国籍も多岐にわたり、文化の違いなどご苦労が絶えないことと思います。しかし、多くの国から留学生を受け入れる経験が今後、学校の強みになってくると考えられます。
- ・ 募集活動の観点から、「面倒見の良い学校」という評価が今後生徒増につながると考えられるので、そのような評価を得るような取り組みが重要と考えます。
- ・ 学生のモチベーション低下の要因として、資格取得後に何ができるのかという明確なビジョンをイメージできないことが挙げられます。その点からも、今後予定されているキャリアサポート授業はモチベーション向上に効果を発揮すると思います。また、外部セミナーへの参加もモチベーション向上に寄与する可能性があるため、検討の余地があると思います。
- ・ アンケートの中に「授業内容が難しい」との意見がありましたが、何とか食らいついて頑張ってもらいたいと思います。
- ・ 募集活動については、子供の数が減少していることで大変厳しい状況だと察します。そのような環境下で、SNSなどの広報活動における「言葉選び」への工夫が重要と考えます。
- ・ 高校との合同学園祭は成果を感じています。今後も引き続きよろしく願いいたします。
- ・ 専門学校の学生が抱えている「基礎学力不足」「勉強の仕方への悩み」「コミュニケーション能力不足」の問題は、高等学校でも共通の課題であり、同じ悩みを抱えているのだなと再認識いたしました。
- ・ 「面倒見の良い学校」を目指すべきとのご意見をいただきましたが、高等学校でもこのキーワードを前面に出して今後やっていきたいと思っています。

9. 事務連絡

次回開催予定 令和7年5月8日(木) 13時30分 2階会議室